

技術・家庭科学習指導案

学 校： 岐阜大学教育学部附属中学校
場 所： 新館1階多目的学習室
学 級： 2年3組
授業者： 水野 綾香

1 題材名

家庭分野C 衣生活・住生活と自立 「つくり出そう！安全・安心・快適生活空間Ⅱ」

2 題材のとらえ

現代は様々なものがあふれ、生活に必要なものを安価で手軽に入手することができるため、自分で何かを製作してまで、よりよい生活を築こうとすることは少ない。しかし、急速な変化を伴う予測困難な社会生活においては、受容的な態度で過ごすのではなく、自ら切り拓いていこうとする実践力が求められると考える。一人一人が課題を解決できる知識及び技能があり、それを工夫し活用しようとする意欲があつてこそ、社会の変化に対応でき、個人としても、また社会としても成熟していくことができると考えるからである。

手作りの作品は「世界に一つだけ」という特別感があり、自分の好みのデザインにできたり、あたたかみを感じられたりするなどのよさがある。また、自分の用途に合わせて作ることができるため、自分にとって使いやすい作品にすることができる。だからこそ願いを込めた作品を丁寧に製作することによって、作品が完成した時には成就感を味わい、いつまでも大切にしようと思ふことができる。手作りの小物を自分自身で販売する若者が増えているのも、そのような理由からだと思ふ。そこで、もの作りを通して、よりよい生活を切り拓く確かな実践力を育成したいと思ふ。

本題材は、義務教育最後の被服実習であり、内容「C 衣生活・住生活と自立」の最終題材である。前題材の終末では、住まいの安全性や快適さを見直すとともに、快適さの要素の一つでもある収納にも目を向けさせた。それをもとに家庭内のどこで、誰のどんなものを整頓できるとよいのかを実態調査をする。また出かけるときに、詰め替えたりせずにそのまま持ち出すこともできるといった2種類の使い道があるウォールポケットバッグを製作することで、生徒は家族の生活を深く見詰め、その根底にある願いや課題と向き合うことができる。小学校でも生活を豊かにするための布を用いた製作を行うが、中学校では課題を解決するために誰のために何を入れ、どこへ持ち出して、どこへ飾るのかというストーリーを具体的に描き、目的に応じて製作を進められるようにしていく。使う人の使いやすさや使う場所などを考慮し、美しく丈夫な作品が製作できたとき、生徒にとって作品が「世界に一つだけ」のものになるとともに、その便利さを実感できると考えている。

ウォールポケットバッグの製作を通して、製作したことによって生活が豊かになったということ、生徒自身が実感できるようにしたい。そして課題や目的を意識し、根拠を明確にして工夫することで、自分や家族の生活を豊かにする工夫しようとする態度を育てたい。

3 本時の指導

本時は、使う人の願いにあつたウォールポケットバッグにするためにポケットの形や種類、大きさ、配置、その他の付属品の工夫を考える。生活を豊かにするための製作では、題材のはじめに「使いやすさ」「美しさ」「丈夫さ」というポイントから考えていくとよいことを共有する。本時では、特に「使いやすさ」を意識して考えるため、導入ではこれらを表現するためにどのような工夫ができるかを全体で確認してから個人追究に入る。工夫するときのヒントになる見本や小物を置いておき、必要に応じて見たり、触ったりしたりできるようにし、時間も十分に確保する。グループ交流では、入れるものの種類

や目的など、共通する事項を中心に話し合う。使い方や使う人の特徴をふまえて説明をし合い、よりよい作品にするために互いに質問やアドバイスをしたり、困っていることを相談したりする。その後の全体交流では、配置や形、ポケットや付属品の付け方など、様々な視点で考えた生徒をそれぞれ紹介し、その後、仲間の考えを取り入れながら、よりよい作品にするために再検討する。「誰のために」「何のために」ということを常に意識し、なぜそのような工夫をしたいのかを明確にして、ウォールポケットバッグの計画を立てられるようにしたい。

4 生徒の実態

生徒たちの考える「よい住まい」とは、災害対策ができていて、整頓されていて生活しやすい、暑さや寒さに対応できるなど、「安全」「快適」の視点に関わるものが多く挙げられた。第2題材の住生活の学習に入る前に、「安全」について問うと、8割の生徒が家の中で怪我をしたことが「ある」と答えたが、自分の住まいは「安全ではない」と答えた生徒は12%しかおらず、残りの88%の生徒は「安全である」と答えた。自分の部屋に関心はあっても、家族共有の空間や、住まい全体については、家族に任せていることが多く、あまり関心がない生徒が多かった。そこで、「つくりだそう！安心・安全・快適生活空間Ⅰ」の学習では、自分の住まいを見つめ、学習したことをもとに自分の住まいでは何ができるかを考える学習を展開してきた。それによって、自分たちの行動や少しの工夫で、安全・安心・快適に住まうことができるという意識に変わってきている。

「あると生活がより豊かになりそうだ」と思う布製品を問うと、整頓できるもの、バッグや巾着などの袋、ブックカバーが多く挙げられた。小学校の家庭科で、エプロンやトートバッグの製作を経験している生徒が多いが、実際に授業以外で製作を行う機会は少なく、もの作りに関して「難しそう」「やってみたいけど、作り方がよくわからない」と感じている生徒が多い。小学校では、作品の本体やポケットの形状、縫い方などを、決められたパターンの中から自分の目的に合わせて選択・決定するなど、生活を豊かにするための布を用いた製作の基礎となる部分を学習してきている。小学校と中学校の系統性を図り、小中学校ともに、生活を豊かにするための布を用いた製作を扱い、製作における基礎的・基本的な技能を習得するとともに、生活を豊かにしようとする態度の育成につなげていく。

5 研究主題との関わり

(2) 主体的・対話的で深い学びを実現する単位時間の学習過程の工夫

① 見方・考え方を働かせるための工夫

本題材で重視する視点は「安全」「快適」であり、他に「協力」「持続可能な社会の構築」の視点も取り上げる。第2題材「つくり出そう！安全・安心・快適生活空間Ⅰ」では、住生活について「安全」「快適」という視点を毎時間意識し、学習を進めてきた。題材の終末には、これらの視点をもとにして、家族との住まい方の工夫を考えている。本題材では、これらの視点で生活を見直し、願いや困り感をもとに、製作したいものを考えていく。前題材、計画、製作というように、題材を貫いてこれらの視点を提示し、意識できるようにする。

② 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた学び方の工夫

主体的な学びのために、実際に生活の中で「収納する」→「持ち出す」→「元に戻す」などの、使う人の生活の動きを具体的にイメージする必要があるため、誰がどこで何を収納するのか、どこ持ち出したいのかなどの例をいくつか挙げる。生徒が考える中であいまいな点は問い返したり、交流の時間を設けて質問やアドバイスをし合ったりすることで、それぞれが描くストーリーをさらに明確にしていく。また、様々な種類の見本を用意することで、見本の中から自分に合うものを選んだり、見本をもとに考えたりするなど、製作に慣れていない生徒も、作りたいもののイメージをもてるようにする。

対話的な学びのために、4人グループで交流を行う。4人で協力して、班全員のウォールポケットバッグをよりよいものにしていこうという姿勢で題材を通して学習を進めていく。4人にするこ

いの布を見たり触ったりしやすく、より具体的にアドバイスし合うことができる。グループ交流では、表を使いながら、何のために、何をどのように工夫するのかを整理しながら交流し、自分の工夫点を伝えるだけでなく、共通事項について互いに考えを出し合い、共通点や相違点を意識しながら話を聞いたり、質問したりできるようにする。

深い学びのために、ワークシートを工夫する。対象者や目的を記入して常に意識できるようにし、自分の意見の広がりや変遷が記録できるようにした。既習内容をもとに考えたり、仲間の意見を聞いて色ペンで書き加えたりしていくことで、よりよい作品にするための見直しや再検討を行いやすくした。本時の後半には、交流後に再検討する時間を設けている。改善できそうな点やポイントを確認してから行うことで、「使いやすさ」「美しさ」などの視点を意識して自分の工夫を見直すことができるようにする。